

ゆとりの生活考える

町外の女性に紹介する「ていねいな暮らし」五 女性6人 魅力発信方法を提案

甘楽町の魅力を町外の女性に紹介する「ていねいな暮らし」五感で感じる甘楽の旅」が9日まで、1泊2日の日程で開かれた。首都圏や前橋市の20〜30代の女性6人が、甘楽の食や歴史・文化に触れながらゆとりのある生活を町民と考えた。



甘楽を楽しむ「夢マップづくり」に
取り組む参加者

都内の女性は「毎日
深夜まで仕事をして疲

町の交流人口を増やそうと、NPO法人自然塾寺子屋(矢島亮一理事長)が初めて企画。参加者は8日、秋畑地区の那須庵で手打ちそばを味わい、山奥の稲含神社周辺を見学した。午後は小幡地区の休憩所信州屋で、茂原荘一町長のまちづくり講話を聞き、アナウンサーの奈良のりえさんによるワークショップ「夢マップづくり」に取り組んだ。

れている。外食も多く、ゆつくりした生活を考えたい」と自己紹介。地元の若手農家ら6人と3班に分かれたマップづくりでは、理想の甘楽の旅や魅力を発信する方法を話し合っただけで、発表した。各班は季節や歴史、癒やし、学びなど切り口を変えて提案。冬の1泊プランでは元巨駅伝、地場産和牛やこん

甘 楽

にやくを使つたすき焼き、稲含山の天体観測を挙げた。一行は甘楽ふるさと館に宿泊。9日は座禅

や俳句・短歌、料理、絵手紙を体験し、せわしい生活を見直していた。